

平成 28 年度 事業報告

総括

平成 28 年度の事業も概ね達成できたと考えております。これもひとえに会員の皆さまのご協力と、理事の方々の努力のお陰と感謝申し上げます。本会の主たる事業である、4 回の研修会開催、支部研修会、各研究会開催、市民公開講座の開催、レントゲン週間イベントの開催を無事に遂行することができました。研修会内容につきましては次項をご参考ください。特に、第 1 回研修会は初めて HIPRAC（広島がん高精度放射線治療センター）の会議室で開催させていただきました。また、施設見学もさせていただきました貴重な機会となりました。広島市民病院放射線診断科主任部長の浦島正喜先生には骨転移の画像診断についてご講演いただき、画像読影の基礎知識を深める事ができたと思います。第 2 回研修会では整形外科領域にフォーカスし、Web カメラを利用しポジショニングのコツを Live で解説いただきました。また、野球肘のエコーもライブ画像で観察するなど、これまでにない取り組みでした。第 3 回の研修会では会員から 8 演題の研究発表と活発な質疑が行われました。また、市民公開講座では、一般の方が 60 名以上参加され全体では 200 名近い参加を得る事ができました。今回はフリーペーパーに広告を 2 度掲載するなど広報に費用をかけましたが、見合う効果があったと考えております。当会の新藤さん、広島市民病院の大谷彰一郎先生のユーモアを交えた講演は大変好評でした。第 4 回研修会では、神戸赤十字病院中田 正明先生による「最新の災害医療における診療放射線技師の役割～できる事からすべき事へ～」のご講演をいただきました。体験に基づく熱い講演内容であり、できる事から取り組まなければというメッセージが伝わってきました。

レントゲン週間イベントは会場の問題から本来の 11 月開催は実現しませんでした。2 月にシャレオ中央広場にて開催できました。450 名を超す骨塩測定を行い、マンモグラフィ実機を展示し疑似体験をしていただく、直接被ばく相談をお聞きするなど、我々診療放射線技師にしかできない企画内容で一般の方に啓発活動を行う事ができました。役員以外の多くの会員の方々に参加していただき心より感謝申し上げます。

モダリティに特化したものとして消化管撮影研修会は従来通り 2 回開催、ハンズオンを主体としたエコー塾も 3 回開催することができました。28 年度も、特色ある研修会ができたものと考えます。

昨年の事業計画の中で、経営マネジメント研修を挙げましたが実現できませんでした。引き続き本年度の目標としていきます。

また、日本診療放射線技師会の事業であります「業務拡大に伴う統一講習会」も、年度内 4 回の開催予定であったものを 1 回増やし 5 回開催しております。中国四国地方では最も多い開催数となり、広島県の会員には多くの受講機会が得られました。広島県の実習指導員の皆さんの多大なる尽力に感謝申し上げます。本年度も 5 回開催いたします、まだ受講されていない方は早急に受講していただきますようお願いいたします。

フレッシュャーズセミナーも例年通り開催いたしました。入会促進活動に加え、入会しやすい会費設定などで確実に入会者数は上向いています。会員数の上昇は会にとって最も重要なことです。本会事業の方向性と遂行能力の妥当性が問われる重要な指標として捉える必要があると考えております。